

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：12603

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24810004

研究課題名(和文) アラビア語資料と欧語資料の分析に基づく西アフリカの諸信仰体系に関する研究

研究課題名(英文) Local Belief Systems in West Africa: An Analysis of Arabic and European Writings

研究代表者

苅谷 康太 (KARIYA, Kota)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教

研究者番号：70634583

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、アラビア語およびヨーロッパ諸語資料の蒐集・整理・分析に基づき、西アフリカの諸現地信仰の歴史的様相を考察することである。調査期間中に実施したセネガルおよびナイジェリアでの現地調査では、アラビア語写本を始めとした資料群の調査を行い、それらの資料の分析から得られた知見などをもとに、14世紀のマリ帝国における金産地と現地信仰との関係を考察した論考の発表や、18世紀末から19世紀初頭にかけてのナイジェリア北部におけるイスラームと現地信仰との関係に関する口頭発表などを行った。

研究成果の概要(英文)：The aim of this research project is to consider the historical aspects of West African belief systems through an analysis of Arabic and European written sources. Field research was conducted in Senegal and Nigeria to gain access to the sources, especially the Arabic manuscripts. On the basis of an examination of the materials, including those found in the field research, I published a paper about the relationship between goldfields and the local belief system in the fourteenth-century Mali Empire. I have also made an oral presentation considering the relationship between Islam and the local belief system in northern Nigeria from the end of the eighteenth century to the beginning of the nineteenth century.

研究分野：西アフリカ・イスラーム地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：西アフリカ 現地信仰 イスラーム アラビア語資料 欧語資料

### 1. 研究開始当初の背景

イスラームに関する史的・研究は、今日まで、西アフリカ宗教史研究を支える柱の一つとなってきた。歴史研究に利用できる文字資料が相対的に乏しいサハラ以南アフリカにあって、西アフリカに関しては、主にムスリム(イスラーム教徒)の手によって書き残されたアラビア語資料群が存在しており、それらから得られる情報によって、この宗教の歴史的諸相は、克明に描かれてきた。

しかし、イスラームがそうしたアラビア語資料の分析に基づく歴史研究の対象となってきたのに対し、イスラームと同程度の、もしくはそれ以上の長期に亘って人々の生活に根ざし、展開してきたと考えられる現地の多様な信仰体系に関する議論は、歴史研究の分野では十分になされてこなかった。その原因の一つとして、アラビア語資料群の大半がムスリムによって書かれ、その紙幅の多くがイスラームに纏わる諸事に割かれているという事実を挙げることができるだろう。

ところが、そうしたアラビア語資料群の中には、西アフリカの諸信仰体系の様相に関する情報が少なからず記されており、それらの情報を抽出・整理・分析することによって、これまで十分に検討されてこなかった現地の諸信仰体系の歴史的諸相に迫ることができるのではないかと着想した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、アラビア語およびヨーロッパ諸語で書かれた9世紀以降の文字資料に現れる、西アフリカの複数の現地信仰を整理・分析し、個々の体系における具体的な信仰対象や儀礼、規範、そこに参与した人々の様相などを明らかにすることである。これによって、互いに異なる多様な現地信仰の体系を「多様性」という語で抽象的に括ることなく、各々の信仰体系の内容とその歴史を描き出し、従来西アフリカ宗教史の把握に際してしばしば採用されてきた、イスラーム史を中心とする歴史認識の枠組みを相対化すること、およびそうした個々の信仰体系を西アフリカ史に位置づけることを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究では、まず、西アフリカの現地信仰体系に関する記述が現れる9世紀以降のアラビア語資料群に広くあたり、その記述内容の整理・考察に基づき、詳細な事例研究を進める対象を選定するという方法を取った。

事例研究においては、アラビア語資料群における記述と、探検記や旅行記を始めとした15世紀以降のヨーロッパ諸語資料群から得られる情報とを突き合わせ、更に、人類学や民族誌の先行研究群の内容も加味することで、考察対象となる現地信仰の歴史的様相の解明を目指した。また、分析対象となる資料のうち、特にアラビア語写本資料に関しては、その渉猟・蒐集を目的とした現地調査を各年

度1回ずつ実施することとした。

本研究課題の申請時には、15 - 16世紀のソンガイ帝国の現地信仰体系の諸様相(信仰対象、儀礼、規範、当該信仰体系に参与した人々など)を主要な事例研究の対象として想定していたが、後述の通り(「4. 研究成果、(3) 今後の展望」) 政情不安が続くマリでのアラビア語資料調査が困難であると判断したため、これまでに蒐集してきたアラビア語資料およびセネガルとナイジェリアでの調査で新たに渉猟した資料を礎に、14世紀のマリ帝国の南方地域において金の生産に携わった「異教」の人々に関する考察と、18世紀後半から19世紀初頭にかけてのナイジェリア北部の現地信仰体系に関する考察を事例研究の内容として設定した。

### 4. 研究成果

#### (1) 現地調査

本研究課題は、アラビア語およびヨーロッパ諸語資料の渉猟・蒐集を基礎としているが、特に西アフリカのイスラーム知識人達が著したアラビア語著作の多くは、今なお未刊行の写本資料である。現地調査を通じてそうしたアラビア語写本資料の渉猟・蒐集に成功した点は、本研究課題の成果の一つに数えられるだろう。

具体的には、セネガル(2013年1 - 3月)およびナイジェリア(2014年2 - 3月)でこうした現地調査を遂行したが、まず、セネガルでは、現地のスーフィー教団(イスラーム神秘主義教団)であるムリッド教団の根拠地トゥーバおよびジュールベルを訪れ、それぞれの町にある教団の図書館において、写本を含むアラビア語およびウォロフ語資料の調査を行った。更に、首都ダカールでは、シェク・アンタ・ジョップ大学の黒アフリカ基礎研究所において、同研究所が所蔵するアラビア語写本の調査を行った。

ナイジェリアにおける調査では、イバダン大学の図書館を訪れ、同館が所蔵するアラビア語写本資料、特に「(2) 事例研究」で後述するソコト・カリフ国のイスラーム知識人達の著作を調査した。

また、これらの現地調査と並行して、フランス国立図書館が所蔵する西アフリカ・アラビア語写本群のマイクロフィルムの蒐集も行った。

以上の作業で蒐集・渉猟した資料を含むアラビア語資料群は、本研究課題のみならず、より広く、西アフリカ史研究全体を支える重要な柱の一つとなる。後述の「5. 主な発表論文等」の「〔雑誌論文〕」は、そうした点を踏まえ、9世紀以降に書かれたアラビア語資料のうち、西アフリカの歴史的諸相を読み解くために利用できるものを大きく「地域内資料」(西アフリカで書かれた資料)と「地域外資料」(西アジア、北アフリカ、サハラ沙漠で書かれた資料)とに分けて概観し、それぞれに該当する幾つかの著作を、基本的な

書誌情報とともに紹介した。

また、「〔雑誌論文〕」は、上記のセネガルにおける現地調査で得た知見などを交えて、同地の複数のスーフィー教団図書館に関する情報を纏めたものである。具体的には、トゥーバおよびジュールベルにあるムリッド教団の図書館、そして、カオラクにあるティジャーニー教団の図書館について、その名称、所在地、施設利用のための手順、所蔵資料の概要などを整理して提示した。

## (2) 事例研究

セネガルとナイジェリアでの調査で渉猟した写本資料を含むアラビア語およびヨーロッパ諸語資料の整理・分析から得られた知見をもとに、後出の「5. 主な発表論文等」に記した複数の研究成果を発表した。特に「〔雑誌論文〕」と「〔学会発表〕」は、「3. 研究の方法」で言及した事例研究の成果の一部である。

「〔雑誌論文〕」では、9世紀以降のアラビア語資料群に記された、西アフリカの金産地に関する種々の逸話とマリ帝国の王マンサー・ムーサー（在位 1312 - 1337 年）の語りを検討した。そこから、14世紀のマリ帝国の南方に位置していたと考えられる金産地が非ムスリムである「異教徒」の土地であったことを明らかにし、金産地がその「異教徒」によって司られることで初めて金を産出するようになることと語るマンサー・ムーサーに、帝国財政を支える基盤の一つであった当該金産地に至る道から北方のムスリム勢力を排除しようとする意図があった可能性を指摘した。更に、アラビア語圏に伝えられたマンサー・ムーサーの語りなどが、西アジアや北アフリカのムスリムが抱くサハラ以南アフリカ像（「異教性」や「野蛮性」など）の保持・強化に少なからぬ影響を及ぼしていたであろう点も指摘した。

「〔学会発表〕」では、19世紀初頭、軍事ジハードを通じて、現在のナイジェリア北部一帯に相当する地域（ハウサランド）にソコト・カリフ国と呼ばれるイスラーム国家を築いたウスマン・ダン・フォディオ（1817年歿）のアラビア語著作群を検討し、イスラームの信仰・不信仰を基準に、彼がハウサランドもしくは西アフリカの住民を如何に分類したのかを明らかにした。また同時に、その主たる活動が布教・教育から軍事ジハード、国家基盤の形成へと移行していく過程で、この分類とそれに基づく彼の思想が如何に変遷し、その変遷が彼の活動や彼を取り巻く政治環境の変化との関連において、如何なる意味を有していたのかを考察した。そして、この考察の中で、彼が不信仰の範疇で例示している、当時のハウサランドに存在していたと考えられる現地信仰の様相にも言及した。

## (3) 今後の展望

本研究課題の申請時には、主たる事例研究

の対象として 15 - 16 世紀のソンガイ帝国の現地信仰体系を想定しており、そのために、アラビア語写本群を始めとした諸資料の渉猟・蒐集を主目的とする現地調査をマリで実施する予定であった。しかし、同国の政情不安が長期化したことを受け、本研究期間中にこの調査を遂行することが困難であるとの判断に至った。そこで、申請時に「本研究遂行中に生じ得る問題点と対応策」として示した通り、新たな考察対象として、14世紀のマリ帝国の事例と 18 - 19 世紀のハウサランドの事例を選定し、上記の通り、それぞれに関連する「〔雑誌論文〕」および「〔学会発表〕」を纏めた。

特に後者の事例については、本研究期間終了後も研究の継続を予定している。「〔学会発表〕」では、ウスマン・ダン・フォディオが言及する現地信仰の信仰対象や儀礼などを詳細に論じることができなかったが、今後、アラビア語資料群の分析を更に進めることで、18 - 19 世紀のハウサランド一帯における現地信仰体系の諸様相を仔細に検討すると同時に、イスラームと現地信仰との接触面における思想および社会の歴史を詳らかにしていきたいと考えている。そのために、本研究課題において調査を遂行することのできたナイジェリアを再度訪れ、国内各地にある図書館・公文書館でのアラビア語およびハウサ語資料調査を遂行する予定である。

また、これと並行して、18 - 19 世紀のハウサランドの現地信仰に関する情報を含むヨーロッパ諸語の探検記や旅行記などの検討も引き続き進め、最終的には、本研究課題で提示した方法に則り、そこから得られた情報と、アラビア語資料群に記された情報との擦り合わせを行おうと考えている。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

### 〔雑誌論文〕(計 3 件)

苺谷康太、14 世紀のスーダーン西部の金産地を巡る情報操作：マンサー・ムーサーの語りの分析を中心に、アジア・アフリカ言語文化研究、査読有、86 号、2013、55-80

苺谷康太、セネガルのスーフィー教団図書館に関する覚書 トゥーバ、ジュールベル、カオラク、アフリカ研究、査読無、82 号、2013、25 - 29

苺谷康太、西アフリカに関する史的研究とアラビア語資料、歴史と地理 世界史の研究、査読無、235 号、2013、50 - 53

### 〔学会発表〕(計 4 件)

苺谷康太、ウスマン・ダン・フォディオの思想におけるハウサランド住民の分類、日本アフリカ学会、2014 年 5 月 25 日、京都大学

苅谷康太、西アフリカのイスラーム：伝播と拡大の歴史、府中市生涯学習センター・東京外国語大学連携講座『中東・アフリカのイスラーム：歴史と現在』、2014年2月7日、府中市生涯学習センター

苅谷康太、金と奴隷の 異界：9 - 14 世紀のスーダン西部における境界認識、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」2012年度公開シンポジウム『境界 Borders in Africa：メディア・民族・宗教の視点から』、2012年12月16日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

苅谷康太、西アフリカにおけるイスラームの歴史的展開：11世紀から19世紀まで、2012年度後期・日本イスラム協会公開講演会『イスラーム化とは何か 中東と西アフリカの事例』、2012年11月17日、東京大学

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

苅谷 康太 (KARIYA, Kota)

東京外国語大学, アジア・アフリカ言語文化研究所・助教

研究者番号：70634583